

# 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会 電気通信システム委員会(第18回) 議事録

## 1 開催日時及び場所

令和5年1月26日(木) 10:00~11:45

於、オンライン会議(Webex)

## 2 出席者(敬称略)

### (1) 委員等

主 査: 丹 康雄

主査代理: 永沼 美保

専門委員: 浅井 光太郎、飯野 初美、岩田 秀行、植松 友彦、大槻 芽美子、鈿吉 薫、  
後藤 良則、高田 芽衣、長谷川 一知、本堂 恵利子、宮地 悟史、本永 和広、  
山本 秀樹、横田 大輔

### (2) オブザーバー

ITU-T 有識者: 荒木 則幸(NTT)、一色 耕治(NTTアドバンステクノロジー)、高谷 和宏(NTT)、  
谷川 和法(NICT)、三宅 優(KDDI 総合研究所)、山田 徹(NEC)

### (2) 総務省(事務局)

中里 学(通信規格課長)、重野 誉敬(通信規格課国際情報分析官)、  
上野 喬大(通信規格課標準化推進官)、山口 大輔(通信規格課専門職)他

## 3 議題

(1) 主査代理の指名について

(2) ITU 電気通信標準化部門(ITU-T)における活動状況の概要

(3) その他

## 4 配付資料

資料 18-1 電気通信システム委員会 構成員一覧

資料 18-2 ITU-T における各 SG の活動状況

参考資料 18-1 国際電気通信連合(ITU)電気通信標準化局長選挙

## 5 議事

開会に先立ち、事務局(通信規格課)の中里課長から挨拶が行われた。

### (1) 主査代理の指名について

丹主査から、永沼専門委員が主査代理に指名された。

### (2) ITU 電気通信標準化部門(ITU-T)における活動状況の概要

資料 18-2 に基づいて、ITU 電気通信標準化部門(ITU-T)における活動状況の概要について事務局から説明を行い、各研究委員会(SG)の有識者から補足コメントがあった。主な質疑等は以下のとおり。

○岩田専門委員 SG5の中で御紹介ありましたが、ICTへの環境とか、気候変動への取組の関連情報として、昨年12月に前TSB局長主催でCxO会合というものが開かれました。その中で、情報通信関連の各企業からSDGsへの貢献レポートがいろいろ出されているのですが、各企業のSDGsの貢献の捉え方が様々であって、それを統一する指標というものが有益であるという議論がなされております。恐らく今後、SGの課題等に展開されるものと思います。

○丹主査 ネット的に他の標準化団体と重なる案件が本当に増えてきていて、それを抜きにしては進まないというような話があるところを、僕自身も懸念しているところで、それを国内の委員会同士だけでもうまく連携してやっていけないかなと考えております。TTCと、JTC1の事務局であるITSCJは近くにありますが、そこでうまく連携してやっていけないかなというような話もしているところです。

もう一つ、非常に懸念しているのが、やはり国際標準化に携わる方の平均年齢が大分上がってしまっていて、特に中国なんかから出てくる人たちと比べると歴然と差がついてきているのかなということで、若い方の育成みたいな話というのも必要なのかなというのが、この標準化全体の課題としてあるかなと思います。

### ○岩田専門委員

丹先生がおっしゃったとおり、ICTが様々な産業界で活用される中で、既に各企業さんは、そういう連携をなされていると思いますが、標準化団体としても、他産業とか、関連の標準化団体の連携を進めているところでございます。

その中で、今回、参加していただいている、活躍されている標準化要職者の方々の次世代の人材を育成するというのが、やはり急務ではないかという議論がされて、TTCの中で、時限的ですが、標準化人材の教育をどうやっていくかについてのアドホックグループを立ち上げました。

そこで約1年間検討していただいて、皆様、関連団体の方々に展開できるように、一緒に人材育成に貢献できるような営みをやっていきたいと思っております。

また、1月31日に、TTCで標準化人材育成のセミナーを予定しております。NECの永沼様とOKIの山本様からも御講演を頂戴する予定です。

○永沼主査代理 年代、年齢層というか、標準化の次世代の育成のところを日本として大きな課題であると私も思っております。

また、1つ情報共有として、ITUでは、国連組織であるというところがありまして、女性の育成、多様性の促進というところを、非常に今、頑張ってるやろうとしております。まずは女性の格差ギャップ、男女の格差ギャップをやっぱり埋めなければいけないというところは、一つTSB局長の大きな課題になっていると、これは前任のリー局長の頃からの非常にクローズアップをされていることでして、今、尾上局長の主管になっているWISEという活動がございます。これは Woman International Standardization Expert group ということで、標準化のエキスパートを国際的にも活動支援していこうということで、非常にオフィシャルな活動として、TSB局長の下でITU全体で行っているものでもあります。日本の皆様には、ぜひその辺りの活動等にもアテンションを当てていただくとありがたいと思っております。

○浅井専門委員 いわゆる人材の育成ということで、これは弊社でも社内で大変問題意識を持っておりまして、御紹介いただいたような各種セミナーへの派遣ですとか、あるいは社内の人事体制的なこと、それから社内の表彰制度といった議論をまさにしているところであり、業界、日本として共有できるリソースにつきましては共有していきたいと考えております。

質問は、SG13で、AIのデータセットという議論を始めているとののですが、これはネットワーク管理へのAIのデータセットというコンテキストに関する議論と考えてよろしいでしょうか。

○谷川氏 ネットワーキングに関する機械学習に関するデータセットだけです。ほかのことをやると切りがないので、ネットワーキングにフォーカスしてやっています。

○浅井専門委員 もう一つ質問です。SG16とTSAGと両方に関わるのですが、フォーカスグループ、メタバースが作られることになりましたが、SG16のCGでこの議論をされていたときには、中国が圧倒的で、韓国がそれに次ぐといった勢力図だったかと思うのですが、これが、TSAGを親としてフォーカスグループになり、ほかの国からも参加するといったことで、中国が圧倒的というような状況は、ある程度変わりそうな様子があるのかなのかについて、何か分かることがあれば、お教えいただきたいと思えます。

○山本専門委員 今、そうならないようにというのと、やはり日本からの活動、日本の中でもいろいろな業界団体もできていますし、いわゆる小さな会社がそういったところに入られて、ビジネスを考えられていますので、そういったところの方が今後困らないように、きちんと標準化を進めるように、日本からの意見を出せるような体制づくりを行っています。それをもって、何とか中国、韓国中心で、日本は何もないよねと言われたいようにはしていきたくと思っています。SG16のエリクソンの副議長も、FGメタバースの副議長に自ら立候補していましたので、SG16の中の中国色は少し薄まるような欧米の活躍を期待しています。

○永沼主査代理 基本的にはTSAGの場になりますと、関心はいろんな国からございます。特に今回のところは、最終的にはリードとしては韓国が取ったというところで、副議長のところは中国も日本も当然入っているわけですが、ほかの国も幾つか入っているところがあることと、それから途上国も興味があると、関心は非常にあるんだと。彼らは比較的役職を取りたがるという傾向がございまして、やっぱり副議長のところに入りたいということを書いてきているところもあります。早く議論を始めてくださいというような話もあるのですが、寄書が結局どこから出るかということが3月以降のFGの実際の活動の中で見ていく点だと思っております。

日本も頑張るという意味をすごく出しているということは、イコール寄書を出していくということになっていくと思いますので、その寄書の動向というものを今後、特に6月のTSAGの中での報告のところでは見ていく必要があるのではないかと思っております。

サウジアラビアが、今回、招へいをしておりますので、やはりアラブも含めて、いろんな国が興味を持って見ているというところは、現段階で申し上げられると思います。

#### ○丹主査

メタバースも、先ほどの Web3もそうですが、そもそもW3CやIETF、あるいはISOのJTC1もありという中で、どういう位置づけで、どこの部分がITU側なのかというような、そういう話というのをやっていかないと、立ち位置的に厳しいのかなという気もします。

#### (3) その他

事務局から次回以降の電気通信システム委員会の開催予定について連絡があった。

以上